今日のイラスト 438　「 イラストでたどる萩往還㉖ 鰐石橋」　　古谷眞之助

イラストでたどる
萩往還
26 鰐石橋と象頭山

萩藩の絵図方・有馬喜惣太の描いた「行程記」には萩から江戸までの行程が絵図として示してあるが、鰐石橋については、「板橋、幅十二間」と記してある。橋は明治18年に天皇の山口御幸に合わせて鉄製の橋に改められ、県下初の鉄橋となった。この橋の下流右岸には鰐石（別名重石）があり、文書館に残る古い絵葉書には巨石と鉄橋を背景に水量豊かな椹野川が写っている。以前は小郡からこの付近まで、川船が上ってきていたという。

橋の背後には明の官人・趙秩が漢詩に詠った象頭山があり、下流左岸には山口生まれの女性にとっては面白くない伝説の伝わる姫山がある。かつて鰐石橋付近は蛍の名所だったが、その蛍は姫山の美女の魂とも伝わる。

文・イラスト＝古谷眞之助

鰐石橋を渡ると、山口の街ともおさらばして大内地区に入る。大内地区は私の住んでいるところである。萩往還ガイドでは基本的に幕末史を中心にガイドしているので、その立場で言うと、実はここから防府市との境になる鯖山峠までは歴史ネタに乏しいのでガイド泣かせのエリアでもある。何年か前、大河ドラマ「花燃ゆ」で例年の 3 倍以上のお客様のあった時には、全コース踏破の希望も多く、大内地区のエリアを担当させられることが多かった。ガイドにとって話すネタがないことほど辛いことはない。もちろん、今回から 4 回かけて鯖山峠までイラストで辿るので、全く無いというわけではないが、ともかくガイド仲間からも人気がなくて、勢い私が担当することが多かったのである。萩往還の一部にバスが走っていて、狭い上にかなりの交通量があることも嫌われる理由。ある地点まではかなりの緊張を強いられるエリアなのだ。イラスト付近ではもっぱら姫山伝説の説明に注力する。江戸期の話だから丁度良いのである。江戸時代の初め、この村に住む美しい娘に懸想した殿様が側女となるよう強いたが、娘は従わない。怒った殿様は姫山山頂の井戸にたくさんの蛇を投げ込み、娘を蛇責めにした。娘は「私が美人に生まれたばかりに」と嘆き、この山頂から見渡せる限りの場所には二度と美人が生まれぬようにと祈りながら命を落とした、という山口では有名な姫山伝説。実はこの話は伝説ではなくて実話に近い。この殿様や美しい娘が誰かは分かっている。しかも娘は死んだりはせずに、ちゃんと側室となっているのである。しかし、ここはやはり伝説通りに話す方がドラマチックである。俗に「山口男に萩女」と言われるが、案外この伝説に基づくものなのかもしれない。そして、大内地区に入れば、毛利氏の前の統治者である大内氏のことについても知り得る限りのことをガイドする。お客様の時間が許せば、萩往還から少し奥まったところにある乗福寺、興隆寺など大内文化を語るうえで大切な両寺を訪れることにしている。大内に住んでいながら、実は私も萩藩の幕末史に関する知識の方が大内文化のそれよりもはるかに多いのだが、地元大内の歴史愛好会「大内史談会」(全く堅苦しくない会)の会長も拝命しているので、少しはその名に恥じないように勉強せねばと思っている。しかし、手強い。(2021.5.23 記)